



佐賀大学
総合情報基盤センター
大谷 誠 准教授

**新たな環境が与えてくれた、
自らの研究を見直す絶好のチャンス。**

平成23年度研究者交流促進プログラムに佐賀大学から参加している大谷と申します。プログラムへの参加期間は、1年(平成23年4月～平成24年3月)の予定で、現在は国立情報学研究所の曽根原研究室にお世話になっています。こちらでは、学術認証フェデレーション(GakuNin)のプロジェクトに携わっております。この研究者交流促進プログラムについては、平成23年の2月末頃に曽根原先生よりご紹介いただき、急ではありましたが、参加(佐賀大学としては、内地研究員として)させていただきました。

私の主な研究テーマは、次世代のインターネットプロトコルであるIPv6や、認証、ネットワーク管理運用です。大学では総合情報基盤センターに所属しており、大学全体のネットワークの管理運用(スイッチングハブ、無線機器、ファイアウォール等々)を行うとともに、学内のネットワーク利用者の認証をWebで行うシステム(Opengate)の開発・研究を行っていました。このようなネットワークの利用者を認証するシステムに限らず、学内で運用される情報システム(教務システム・グループウェア、eラーニング、メールなど)の多くが、近年Webを利用するシステムになってきました。Webを用いるシステムでは、よくIDとパスワードの入力を行う認証が用いられます。よって、通常、それぞれのWebシステムで毎回、IDとパスワードの入力が必要となるため、どうしても利便性が低下してしまいます(それがすべて同じIDとパスワードであっても)。このような利便性の低下を解決するための方法を模索していたところ、国立情報学研究所が取り組んでいる「学術認証フェデレーション(GakuNin)」に出会いました。

学認では、参加機関がフェデレーションのために定めたポリシーを信頼しあうことで、相互に認証連携を実現します。これにより、学内でのシングルサインオン(一つのIDとパスワードであらゆるシステムが利用可能)を実現することが可能になるとともに、他大学や商用のサービスにおいても、1つのパスワードを利用し、かつID・パスワードの再入力を行わずに利用できる環境を実現することができます。これはまさに、私が実現したいことであり、Opengateやその他のWebサービスにシングルサインオン機能を実装するとともに、学内のサービス公開や、学外のサービスの利用のために学認に参加しました。平成22年に入り、学認に関係する取り組みをより進めていきたいと考えていたときに、研究者交流促進プログラムのお話をいただき、参加させていただきました。

研究者交流促進プログラムの話を聞いてから、こちらに来るまでにあまり間がなかったため、佐賀の住まいもそのままに、東京で暮らし始めましたが、非常に快適な生活を送らせていただいています。研究者交流促進プログラムからのサポートもあり、国立情報学研究所の近くのマンションに住んでおり、通勤も徒歩で、非常に快適です。また、神保町ということで本屋も多く、週末などいろいろな本屋を巡ったり、秋葉原でいろいろな情報機器を眺めたりと、私生活も非常に充実した生活を送っております。その他、関東近郊で開催される研究会やシンポジウム等に気軽に参加できるのもありがたいと思っています。

現在は、学認に関するシステム構築に関する議論等に参加したり、学認の普及のための講習会や説明会などに講師として参加したりと、とても充実した毎日を送っております。まだ研究者交流促進プログラムの期間半ばということで、これといった成果はありませんが、残りの期間では、これまでにプログラムに参加した経験を生かし、佐賀大学の学内サービスのみならず、学認にとっても有益なシステムやサービスを実現できたらなと考えています。

大学の職務や授業学生指導等から離れて、このような比較的長期のプログラムへ参加することは簡単ではありませんが、新たな環境でいろいろな情報を得ながら自分の研究を見直すには非常にいいチャンスであり、参加してみてもそれを改めて実感している毎日です。参加を検討している方がいらっしゃいましたら、是非参加してみてください。